



16 孔雀図 森徹山

対幅

絹本着色 江戸時代(十八〜十九世紀)
本紙各一五八・七×八九・二

右幅には美しい尾羽を誇らしげに掲げ、地面を啄ばむ雄を、左幅には華やかな羽は持たないけれど、堂々と凛として空を仰ぎ見る雌を描く。両幅とも、描写されるのは鳥一羽と足元の草だけで、それぞれのポーズに伴う必要空間をすっきりとまとめて孔雀の存在感を高めた構図がむしろ洒落ている。

森徹山(一七七五〜一八四一)は、猿画で知られる森祖仙の兄・周峰の子で、祖仙の養子となり、父周峰に学んだ後、円山応挙の門下に入り、優れた弟子十人のうちの一人に数えられた画師である。

質感見事な応挙の孔雀図を意識して描かれたと見られ、弟子の孔雀図としては応挙の描写にかなり近い作品である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花鳥―愛でる心、彩る技（若冲を中心に）

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 40

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年三月二十五日発行

©2006, The Museum of the Imperial Collections